

埋文えひめ

(第6号) 昭和62年3月

編集・発行 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター 〒790 松山市一番町4丁目4-2 TEL0899(41)5645
整理事務所 〒791-11 伊予郡砥部町原町171 TEL0899(62)6129
(62)3997

昭和61年度の歩み

埋文センターもはや10年目の歩みを終えようとしています。本年は国や県に加え市町村からの調査依頼もあり、発掘調査や確認調査に暮暮れた年となりました。以下、今年1年をふり返ってみました。

- | | |
|---|--|
| 4月1日 今治近見古墳群確認調査(～5月31日) | 8月1日 水満田古墳公園発掘調査(～3月31日) |
| 1日 四国縦貫・横断自動車道埋蔵文化財調査(～2月28日) | 26日 松山市北斎院確認調査 |
| 16日 久万町落合確認調査(～17日) | 28日 全国埋文協中国・四国・九州ブロック会議2名参加(於広島県三次市)(～29日) |
| 5月1日 伊予東圃場整備発掘調査(～2月28日) | 9月1日 丹原総合公園発掘調査(～11月15日) |
| 1日 朝倉圃場整備発掘調査(～2月28日) | 2日 県高齢者大学校講師1名派遣(於県老人福祉センター)(17日) |
| 13日 丹原町久妙寺確認調査 | 4日 奈文研研修「遺跡測量課程」1名参加(1～30日) |
| 14日 松山環状線発掘調査(～3月25日) | 11日 全国埋文協研修会3名参加(於千葉県館山市)(～12日) |
| 14日 今治バイパス発掘調査(～3月25日) | 19日 西条市飯岡確認調査 |
| 14日 西条市バイパス発掘調査(～3月25日) | 10月4日 縄文土器づくり講師2名派遣(於国立大洲青年の家)(5日・11月8・9日) |
| 20日 「国道196号今治道路関連遺跡展」(～11月9日)(於県立歴史民俗資料館) | 10月13日 奈文研研修「遺物取り上げ法課程」1名参加(～16日) |
| 21日 埋文センター役員会 | 23日 埋文えひめ—5号—発刊 |
| 28日 県文化行政担当者会議1名派遣 | 24日 奈文研研修「遺構探査・予備調査課程」1名参加(～11月18日) |
| 6月1日 桜井小・中学校発掘調査(～3月31日) | 28日 宇和町清沢・杵所確認調査(～29日) |
| 6日 今治市内詳細分布調査3名派遣(～3月31日) | 11月1日 西条市八堂山確認調査 |
| 26日 全国埋文協総会3名参加(於滋賀県大津市)(～27日) | 4日 伊予市上野確認調査(～5日) |
| 7月2日 奈文研研修「一般課程」1名参加(～8月9日) | 10日 川内町北方確認調査(～11日) |
| | 13日 今治市高市確認調査(～17日) |
| | 17日 朝倉村古谷・山越確認調査(～21日) |
| | 19日 「県立動物園整備計画関連遺跡展」(～5月10日)(於県立歴史民俗資料館) |
| | 23日 丹原町文化祭に、町内遺跡からの出土品を出版 |
| | 1月7日 宇和町金比羅山確認調査 |
| | 3月13日 奈文研研修「石器調査課程」1名参加(～24日) |
| | 26日 砥部町麻生確認調査 |
| | 27日 埋文センター役員会 |
| | 埋文えひめ—6号—刊行 |



丹原町久妙寺中世城跡

昭和61年度発刊報告書の紹介

伊予国分尼寺跡
今治市桜井埋蔵文化財調査報告書

伊予国分尼寺跡は、今治市立桜井小・中学校敷地内に位置している。遺構として方形竪穴住居跡1棟、掘立柱建造物跡19棟、溝状遺構3条、土坑8基、柱穴多数が検出されており、ほとんどは古墳時代中期から奈良・平安時代にかけてのものである。遺物は縄文時代後期前半、弥生時代後期の土器の他、上記の各遺構に伴う土師器、須恵器、布目瓦が多数出土し、さらに中・近世の土器、陶器も若干出土している。

遺構・遺物とも中心となるのは、奈良・平安時代で、特に多量の瓦が出土した溝状遺構は、本報告書の表題となっている伊予国分尼寺の寺地を画するものと考えられる。今回の調査で今まで諸説のあった伊予国分尼寺の位置も、ほぼ桜井小・中学校の敷地内に存在した可能性が強くなった。

上三谷古墳群

県営圃場整備事業埋蔵文化財調査報告書

上三谷古墳群は、県営圃場整備事業に伴って昭和60・61年度に発掘調査が行われた。本報告書は、昭和60年度調査分の古墳5基、墓地2箇所についてまとめたものである。

古墳は、ほとんど6世紀後半に造営された円墳で、内部主体は、未確認の7号墳を除けば全て横穴式石室である。特に、3号墳は周溝の検出状況から、後円部径20mの前方後円墳と考えられる。後円部中央の石室は、4.5×2.05mの両袖型玄門付横穴式石室であり、須恵器・鉄器・装身具などが出土している。遺構・遺物の遺存状況はよくないが、前方後円墳という墳形を重視して、当該地域の首長墓と想定した。

本古墳群の周辺には、首長墓に比定される古墳が少なくない。ここに、嶺昌寺古墳(三角縁神獣鏡2面・4世紀前半)→客池古墳(全長30mの前方後円墳・6世紀前半)→塩塚古墳(一辺30mの方墳・7世紀初頭)といった首長墓系譜が想定される。その中で、今回報告した3号墳は、客池古墳と塩塚古墳の間を埋める首長墓として評価し、より厳密な首長墓系譜が明らかとなった。

このほか、A墓地検出の一字一石経塚の標塔には、造立年月日・施主名が記されており、経塚研究に新資料を追加した。

四国縦貫自動車道
埋蔵文化財発掘調査報告書

四国縦貫・横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査の一環として昭和59年から61年にかけて行われた第4次・第5次調査の4遺跡(高原10・11号墳、轟城跡、深谷山石棺群、大小谷谷窯跡)についてのものである。

高原10・11号墳は、横穴式石室を内部主体とする円墳で墳丘の破壊は著しいが石室より出土の須恵器から7世紀後半と見られる。

轟城跡は、主郭から多数の柱穴と土師質土器が検出され、北郭からは十数口の柱穴に伴って弥生土器片と石器が検出され高地性遺跡と中世の山城の立地の同一性を物語るものであった。

大小谷谷窯跡は、7世紀中葉と見られる単独の須恵器の登窯で、窯本体、前庭部、ステ場から、コンテナ約150箱の須恵器片が出土している。中でも直径37cmの大型円面硯をはじめ、須恵器製作時に使われる陶製当て道具や、寺院等に使用される磚などが検出されている。

出土遺物の性格は極めて官的要素が強く、官衙・寺院が主な供給先と考えられ、宇摩地方の官窯の一部と考えられる。周辺の古代官衙・寺院は発掘調査が行われておらず、今後、大小谷谷窯跡の供給先の解明が望まれる。

朝倉高大寺・中力・下岡遺跡

県営圃場整備事業関連埋蔵文化財調査報告書

朝倉高大寺遺跡は、頓田川支流の高大寺川によって開析された谷の谷頭に面する洪積台地上に位置している。本遺跡からは、中世の掘立柱建造物跡5棟、土坑8基、竪穴状遺構1基、柱穴多数が検出され、小規模な集落を形成していたと思われる。

朝倉中力遺跡は、頓田川本・支流によって形成された扇状地上に位置している。本遺跡からは、方形竪穴住居跡1棟、中世の溝状遺構7条、土坑10基、柱穴多数が検出されている。遺物は中世土器が主体であるが、弥生時代の手握ね土器も出土している。

朝倉下岡遺跡は、頓田川によって形成された洪積台地上に位置している。本遺跡からは、弥生時代中期後半の円形竪穴住居跡1棟、溝状遺構4条、柱穴多数が検出されている。遺物は円形竪穴住居跡に伴う弥生土器の他、縄文土器も出土している。

発掘調査速報

1. 大峰ヶ台にも中世集落

松山市南江戸

松山環状線の工事に伴う調査は、昨年から引き続きしている古照遺跡とともに、大峰ヶ台遺跡でも調査を開始した。

古照遺跡では延長500mの範囲で平安時代末から鎌倉時代にかけての遺構群を検出しており、中世における本地区の集落の南北への広がりを確認することができた。遺物では、ヘラ切り土師器とともに内黒土器や楠葉型の瓦器が出土し、糸切り土師器とともに和泉型の瓦器が出土するなど、中世の日用雑器の編年や組み合わせ、さらに畿内方面との交易を考えることのできるものが出土している。

大峰ヶ台遺跡では、古照遺跡よりやや新しい時期の建造物群を検出するとともに、古墳時代初頭の住居跡や近世の墓地を検出している。中世の建造物群のなかには、稜線の上にコ字状の小溝をめぐらしたのもみられ、中世における住居形態を考える上で重要な遺跡である。本遺跡については来年度も継続して調査を行っていく予定である。



大峰ヶ台3区

2. 奈良時代の建造物跡確認

西条市飯岡

西条市バイパス建設に伴う事前発掘調査で、牛の角遺跡(500m²)、池の内遺跡(3600m²)を調査した。

牛の角遺跡からは、住居跡などの遺構は検出されなかったが、遺物としては、弥生時代中期後半の壺・甕・高坏や石鏃・小型石斧などが出土した。

池の内遺跡からは、弥生時代中期の円形竪穴住居跡2棟や奈良時代の方形竪穴住居跡1棟、掘立柱建造物跡10棟を検出した。掘立柱建造物跡は、桁行3間、梁行3間のもが多く、棟方向は南北棟と東西

棟のものに二分される。そのほか多数の柱穴・土壇状遺構・溝状遺構を検出している。遺物は、縄文時代晩期の土器片、弥生時代中期の壺・甕・石鏃のほか、須恵器の坏・高坏・播鉢・提瓶・横瓮・壺・甕や土師器の坏・甕・内黒土器の埴や瓦、窯壁などが出土している。これらの遺物のうち量的に主体をなすのは8世紀を中心とする須恵器や土師器である。周辺には、古墳時代後期とみられる半田山古墳群や7世紀末と推定される須恵器を焼成した北山窯跡や平安時代初頭とみられる薬師廃寺跡などの遺跡があり、今後これらの遺跡との関連も踏まえながら調査を進めていきたい。

3. 白磁合子など貿易陶磁器出土

今治市八町

今治バイパス建設に伴う発掘調査である。

今回調査を行った中寺遺跡は、蒼社川右岸の沖積平野に位置する。また、遺跡のある八町地区と隣接する中寺地区はともに伊予国府推定地としてあげられている所でもあり、考古学上重要な地域である。

遺構は、耕作遺構として、江戸時代以降の畑の畝と杭列を伴う水路跡、中世の素掘り小溝10条を検出した。これらはほぼN45°Eを指向しており、当時の条里についての好資料である。また、生活遺構としては、柱穴約1400口、土坑39基、井戸8基、墓3基を検出した。今回検出した墓3基は、屋敷内墳墓として墓制解明のための貴重な資料である。

遺物としては、弥生土器・土師器・須恵器・内黒土器・瓦器・貿易陶磁器・瓦・銭貨・石硯・石鍋・五輪塔など、多種多様であるが、主体をなすのは中世の遺物であり、その盛期は13・14世紀である。

今回の調査では、奈良時代の生活遺構は認められないが、国府との関連も考慮し、調査を進めたい。



出土貿易陶磁

4. 空堀の圍繞する山城

丹原町久妙寺

丹原総合公園予定地内で下記の2遺跡の発掘調査を実施した。

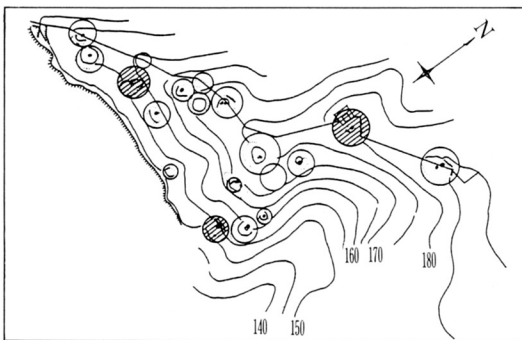
お筆山古墳の1号墳はA B 2つの横穴式石室を持つ一墳丘二石室の円墳、2号墳は横穴式石室を内部主体とする方墳で、同一調査区内で円墳から方墳への推移を見る事が出来る。また、1号墳A石室からは、多数の副葬品に混じて長頸壺に納められた米などが検出された。

耳金城は、稲荷山(標高約65m)の頂上部を削平して構築したもので、遺構としては多数の柱穴や貯蔵穴などが検出されたほか、前面から両脇にかけては岩盤を掘り抜いた空堀が巡り、背後には堀切が稜線を区切っている。また、削平された頂上部の縁辺からは弥生時代の土壙墓15基と、壺棺・甕棺各1基が検出され、過去に山裾でも壺棺が検出されていることから、ほかにこの山の北東斜面には多数の墳墓が造営されていると推測される。

5. 砥部町に古墳公園

伊予郡砥部町麻生

水満田古墳群は、松山平野の南部、砥部川左岸の丘陵(標高140~185m)に位置している。砥部町は本古墳群の存在する丘陵に古墳公園を計画し、昭和61年8月に確認調査を行った。その結果、24基の古墳が確認された。翌2・3月には、石室の公開展示のため、3・12・21号墳の発掘調査を行った。3基とも古墳時代後期の円墳で、横穴式石室を内部主体とし、須恵器・鉄器などを出土している。



水満田古墳群略図 S=1:5000

まいぶんざっぽう

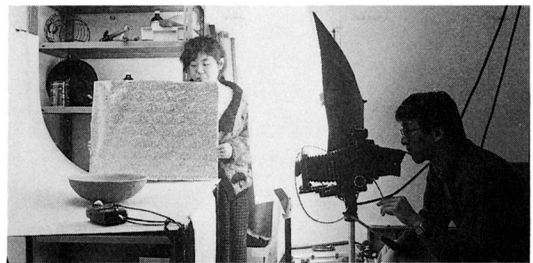
遺物の写真撮影

遺物写真は基本的に実測図と同じ縮率で撮影しています。そこで「シノゴ」という大型の写真機を使う訳です。「シノゴ」とは4×5インチのフィルムの大きさのことでセンチに直しますと9.5×11cm位の大きさです。このフィルムは暗箱の中に手を入れて手さぐりで一枚一枚ホルダーにつめます。

この写真機で遺物を1/2に写すとすれば遺物の口径を実際に計ってピントガラス上でその1/2の大きさになるまで写真機とピントを前後します。

また、遺物写真の基本的な写し方は遺物を横から見て手前の口縁の上にならずに向う側の口縁が見える位の位置で写します。こういう写し方をしますと必然的に、口の所より底部の方が写真機より遠くなり底部は実際よりは小さく写ってしまいます。そこで「アオリ」という操作をします。これは、レンズとフィルム面を垂直に起すことによって遺物とフィルム面との距離を正しく補正し、部分的な強調感がなくなるわけです。

また照明の当て方も基本的に右上方から主光線を当てる様にしています。中型のストロボを使っていますが、モデリングランプで光の当たり方を見ながら角度を調整します。更にストロボを直接当てますと陰が強く出てしまいますので、専用の傘の内側で乱反射させたり、薄紙を透過させたりして光を軟らかくします。ちょうど太陽の光線が雲を通して照らしている様な状態にするわけです。それでも、右上方から主光線を当てますので、どうしても遺物の左側面が暗くなっています。そこで今度は、レフ板という銀紙を貼った板で光を反射させて補助光線を当てます。



撮影風景

編集後記 今年度は事業が多く 窮屈な紙面構成となってしまいました。発掘調査速報でとりあげた遺跡には、現場説明会の開けなかったものがいくつかあります。このような遺跡については、今後も機会をみつけて特集を計画していきたいと思っております。来年度は、今年度以上に調査がめしろ押しとなっていきますが、職員一同埋蔵文化財の保護・調査・研究に全力でとりくんでまいりますので、よろしく願います。